

## ◎ 教務委員会

教務主事 桑田茂樹

### 1. 基本方針

FDの推進、定着を目指して、次の3つの項目を柱（基本方針）として教務委員会の運営にあたる。

- (1) 学生の意識改革
- (2) 学校サイド（教職員、非常勤講師）の意識改革
- (3) システムの構築、業務実施方法の改善

これらを同時並行の形で取り組んでいく。特に、本年度から新しく実施する業務については、問題点の早期抽出とその対策を講じて行く。また、従来の業務については改善を加えながらその定着を目指す。

### 2. 運営方法

[1] 主事補を中心とした「方針検討会」で全案件の原案を検討し、それを教務委員会で討議・修正し、教務委員会案とする。

[2] 方針検討会

構成：教務主事、教務主事補、学生課長、教務係長 合計6人

業務：

- (1) 公務関連業務の各種業務に対して各主事補が分担・検討し、原案を作成する。
- (2) この原案を当検討会に持ち寄り、上記メンバーで検討し、1次案とする。この案を教務委員会で討議・検討し、決定する。

[3] 教務が主体になって行う学校全体の諸行事は、全教務委員が分担・協力し実施する。

[4] 教務主事は、全体の教務関連業務の統括、対外業務と折衝、学内外諸事項に対する窓口業務を中心とする。

[5] 教務委員会および方針検討会にメール会議を導入して会議の効率化を図る。

### 3. 平成17年度重点推進項目

[1] 留年者・退学者減少対策

好循環：学生の受講姿勢の改善・家庭学習の充実→卒業者数増（進路開拓）→志願者増（指導・支援の向上）を目指す。

- ・朝の出席状況の調査（月毎）の結果を運営会議で報告し、指導依頼をした。クラス間の差はあるが、遅刻・欠席数の減少につながっていない。
- ・前期中に30時間以上の欠課をしている学生の状況（指導）を教務委員会で報告してもらい、科・学科としての指導を依頼した。
- ・参観日における保護者からの指摘は、昨年ほど厳しいものはなかったとはいえ、学生の受講姿勢については、まだ、携帯、漫画、居眠り等が目立つ。

[2] 入学志願者対策

中学校の先生を対象とした見学会などを導入することにより、本校のアドミッション・ポリシーに合った志願者（入学者）を確保する。また、現行の中学校に対するPR方法についても改善していく。

- ・夏季体験学習、ものづくりフェスタ時に入試説明会を実施した。
- ・松山で「ものづくりフェスタ」を開催した。
- ・中学校訪問・説明会用のPRダイジェスト版の作成、また、在校生、入試状況などの情報ファイルを作成して活用した。
- ・昨年に引き続き、1年生のコメント付写真を出身中学校に送付した。
- ・平成18年度の志願者数は非常に厳しい結果（危機的状況）となった。

### [3] 学習支援・指導

- 90分授業の実施に伴い、放課後の有効活用（課外特別活動、補習、オフィスアワーなど）、家庭学習の習慣づけを推進する。欠課数の多い学生や成績不振学生に対する早期指導（長期休業中の補習・講座の開設など）を行う。また、学生個々の指導記録のフォーマット化を行い、年度を越えた指導体制（担任間の引継ぎ）を構築する。
- ・課外特別活動については、一部有効な活用を行っているクラスもあるが、より内容の充実を図る必要がある。（教務委員会で実績調査を行い、キャリアアップ教育を中心とした取り組みを計画中）
- ・学生の指導記録のフォーマット化は行った。次年度の担任へ引継ぎ、有効な指導・支援に活用する。

### [4] 進路指導体制の構築

- 課外特別活動の時間を有効に活用した低学年からの進路指導を充実させ、進路情報の提供方法についても改善していく。また、4年生全員の早期進路決定（就職の場合は業種まで、進学の場合は受験先）を目指す。
- ・本年度は検討段階で終わっている。（卒業生講話や進路で悩んでいる学生への先輩の話等は実施しているが、体系的な体制はできていない。）
- ・進路未定の入学生が増加しており、低学年からのキャリアアップ教育や工場見学等を実施し、早期に進路目標を持ってもらう指導体制が必要である。

### [5] 保護者に対する情報発信と連携

- 公開授業（参観日）、懇談会の実施方法を改善し、保護者との連携（相談）機会を増やす。また、保護者アンケートの結果に基づいた改善を推進する。
- ・参観日は、アンケート結果に基づき土曜日に実施した。
- ・懇談会（7月）では、進路状況や各学科からの情報発信をプリントで配布した。
- ・来年度は、「高専だより」等に加えて、「学年だより」も作成し、保護者に配布予定である。

## 4. 平成17年度実施計画

### 4. 1 改善を加えながら実施する業務

- [1] 入学式・始業式（新入生研修）
- [2] 1年合宿研修：大洲での研修を総仕上げとした事前学習（目的の周知）の充実
- [3] 夏季体験学習・体験講座：WGの結成
- [4] 学校見学会：デモ実験を含めた見学方法の検討と実施
- [5] 中学校訪問・学校説明会：PR用資料作成と訪問先、時期の検討
- [6] 実力試験の在り方：試験結果の有効活用

- [7] インターンシップ：事前学習（目的の周知）・事後学習（報告書、報告会）
- [8] TA、アドバイザー制度の見直し
- [9] 来年度の行事スケジュール、時間割の早期作成
- [10] 特別活動の充実（計画書の作成）：卒業生講話
- [11] オフィスアワーの定着：実施状況調査（2月）
- [12] 保護者を対象とした公開授業（参観日）：実施形態の改善
- [13] 公開授業：実施結果のフィードバック法の確立
- [14] 保護者懇談会の実施
- [15] 長期休業中の補習、講座の充実
- [16] 四国高専間共通試験の実施、定着

- ・上記16項目について実施した。この内、本年度改善したことや改善を必要とする事項は次の通りである。
- ・1年合宿研修：事前学習の充実を図ったが、大洲では問題点が多い研修となってしまった。校内研修を含めて改善が必要である。
- ・夏季体験学習：テーマによる参加者の偏りが大きい。テーマ設定や実施方法等の見直しが必要である。
- ・学校見学会：2つのコース（全学、学科別コース）で実施した。また、JR松山駅までの送迎も行った。（ほぼ良好であった。）
- ・中学校訪問・学校説明会：PRダイジェスト版の作成、また、在校生、入試状況などの情報ファイルを作成して活用した。
- ・TA：募集方法等を改善し、受講姿勢の改善が見られた。
- ・長期休業中の補習、講座として、英語実力養成講座、数検合格対策講座、課題演習2、電気情報工学科実力養成研修を昨年に引き続き実施した。これらの学習支援については定着してきた。

#### 4. 2 新しく試行・実施する業務

- [1] 学生の指導記録の作成と担任の引継ぎ
- [2] 学生の成績のグラフ化と活用方法
- [3] ショートホームルーム、課外特別活動の内容の充実
- [4] 習熟度（コース）別授業の実施と改善
- [5] 中学校、高校との相互授業参観
- ・個々の学生の指導記録のフォーマット化を行い、進路指導や進級判定会議の参考資料として活用した。また、次年度の担任に引き継ぐことにより、学生指導に活用する予定である。
- ・学生の成績のグラフ化はできていない。
- ・課外特別活動については、実施内容の見直しを行った。来年度はキャリアアップ教育を中心とした内容で充実を図っていく。
- ・数学のコース別授業については総括を行い、次年度の取組みについて検討した。
- ・公開授業を案内を保護者だけでなく近隣の中学校にも行った。2中学校からの参加があった。

#### 4. 3 実施に向けての検討事項

- [1] 単位計算方法の変更に向けた問題点の抽出と対策（シミュレーション）の検討
- [2] アドミッション・ポリシーの見直しと新しい入試方法の検討

[3] PR方法の改善（遠隔地でのPR、中学校の先生を対象とした見学会など）

[4] 入試結果の解析と入試方法の検討（継続）

[5] 留年、退学が多いことに対する原因分析と対策（継続）

[6] 担任の引継ぎ方法の改善

- ・学修単位の導入については、その前提条件の検討を行った。来年度は各学科1科目の試行とシミュレーションを行う予定である。
- ・推薦入試の面接項目を見直し、アドミッションポリシーに合ったものに改善した。
- ・前述のような種々のPRを行ったが、入学志願状況（倍率）は過去最低であった。来年度は入試方法を含めて最重点課題として取り組む。
- ・入試結果の解析については不十分であり、来年度はWGで検討していく。

#### 4. 4 他部門との連携体制の整備

[1] 低学年教育委員会との連携：新入生研修・大洲合宿研修、2年生の学外研修、課外特別活動、ショートホームルームの内容の充実など

[2] 学生委員会との連携：進路指導体制、企業説明会、インターンシップなど

[3] 情報教育センターとの連携：カードキーの活用拡大、教室環境等の整備など

[4] 専攻科教育委員会との連携：J A B E E受審に向けた取り組み

[5] 高度技術教育センターとの連携：新居浜高専教育フォーラム2005、サイエンス・パートナーシップ・プログラムなど

- ・他部門との連携については、まだ不十分な点が多い。来年度は、学年主任との連携協力体制をスタートさせていく。
- ・教務委員会の実務が多いことを反省し、他部門への協力依頼を含めて改善していく。

#### ○ 総括的な評価と課題

本年度教務委員会としての活動は実務的な事項が多すぎ、各項目の十分な改善、検討ができていない状況であった。来年度はWGの体制（入試データの分析・検討、PRの企画・立案、アンケート分析・評価等のWG）を強化して、充実を図る予定である。来年度重点的に取り組む項目は以下の通りである。

1. 志願者増員対策

2. 学生の受講姿勢の改善

遅刻・欠席の改善

授業中の漫画、携帯、居眠り等の改善

3. FD研修会等

四国高専共通試験の当番校

四国高専教科別FD研修会の開催

4. 学修単位導入に向けた試行と準備（授業方法の改善と家庭学習の習慣付け）